

第1 学年生活科の実践

1 単元名 「あきだ！ いっぱいあそぼう」(全17時間)

2 単元目標

○秋の校庭や公園で集めた葉や木の実を使って、おもちゃや飾りを工夫してつくったり、遊び方を工夫したりして、秋の遊びのおもしろさや自然のふしぎさに気付き、安全に気をつけて、みんなで遊びを楽しむことができる。

関心・意欲・態度	思考・判断	気付き
・秋の自然に関心をもち、秋の自然を利用してみんなで楽しく遊ぶなど楽しく生活しようとしている。	・季節の変化について自分なりに考えたり、身近な自然やものを利用した遊びを工夫したりして、それをすなおに表現している。 ・みんなが楽しく遊べるように遊びの約束やルールを考えながら、みんなで楽しく遊んでいる。	・秋の自然を利用して遊んだり、遊びに使うものをつくったりするおもしろさや、自然のふしぎさ、秋の自然を使ってみんなで遊ぶことの楽しさに気付いている。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

研究課題「切実な問題意識を持ち、友だちと関わり合いながら学習する児童の育成」

手立て・・・児童の「切実な問題」を見とった授業づくり

ブロックテーマ「人の言動に何かを感じる姿」

「自分の思いや、他者からの刺激に対し、素直に表現する姿」

(1) 単元について

生活科は、身近な生活の中で「自分とのかかわり」を軸に「具体的な活動や体験」を通して学んでいくという特徴がある。学習過程において、「おや？なんだろう」と興味・関心や疑問をもったり、「わくわく」しながら主体的に活動したり、「もっとこんなことをやってみたい」と新たな願いを生み出したりするような子どもの生き生きとした姿を見ることができる。本単元では、秋という季節を体で感じて木の実を集めたり気に入った落ち葉を見つけたりする楽しい活動を通して、自分と自然とのかかわりを実感してほしい。また、自然をより身近に感じたり、自然にあるもので自分の生活を楽しんだりする中で、自然のふしぎさやおもしろさに気付かせていきたいと思う。これらの活動を通して、友だちとのかかわりも大切であることに気付かせたい。おもちゃ作りや飾り作りをする中で、一人では見つけられなかった作り方や工夫を教えもらえたり、また自分の考えたアイデアを伝えたりする喜びを感じ、ふれあいながら楽しむ体験を多く重ねさせたいと思う。

10月半ばにあさがおの茎でリース作りをしていたとき、まわりにどんぐりが落ちていることに気付き、子どもたちは、まわりの様子が夏の頃とは違ってきたことに目を向けるようになった。そして、今までの生活科の学習経験から、「秋探検をしたい」「どんぐりやはっぱを集めて何か作りたい」というように、自然の恵みを見つけたことに喜び、その恵みを使って何か作って楽しみたいと「わくわく」している。自分の考えたおもちゃや飾りを作っていくと、材料や道具が足りない、作り方がわからない、材料をもっと集めるにはどうしたらいいか、道具はどんな道具が必要か、どうしたら作り方がわかるのかといった知的好奇心が生まれると考えられる。また、作ったおもちゃや飾りで「もっとみんなと楽しみたい」という願いが生まれたとき、どんなルールや約束が必要なのか、みんなで共通に理解しておくことは何かを自発的に考えていくような学習過程になるのではないかと考える。さらに、自分たちが作ったものを「だれかにプレゼントしたい」と思ったとき、「喜んでもらうために」と相手のことを考えて作るという活動に発展していけたらと考える。今までの生活科での学習では、あまり立ち止まって考えたり工夫したりする場が少なかったが、本単元の学習を通して活動ありきにならずに自分のたちの願いを実現するための学び合いとなるようにしていきたい。

(2) 指導について

自分で拾ってきた木の実や落ち葉を使ってどんなことができるのか、どのように楽しむのかは児童にとって楽しい課題となる。ただ、活動と思考が未分化であるという低学年の発達特性を踏まえ、まずは活動して思考するという学習過程を考えた。児童自ら「もっとこうしたい」という願いをもち、単元の終わりまで主体的に学習できるように、活動する段階であまり教師が準備や手助けをしないようにする。そして、活動を止めて考えるというよりは、活動の途中でどうしても考えたいという場面を創り出していく。一つ目は、集めた木の実や落ち葉で好きなものを作ったとき、「楽しく遊びたい。」という思いが予想される。「楽しく遊ぶ」ためには、いろいろ工夫する必要があることに気付き、準備や制作など主体的に活動できるだろう。工夫を考え、それを生かしてまた作り、楽しむ。このように活動と思考を繰り返して自分たちの願いに近づいていく学習のよさを味わわせたいと思う。二つ目として、一人で遊んだり自由に遊んだりするだけでなく、「友だちやみんなと一緒に遊びたい。」という願いが生まれてくると考える。ルールや約束を作ったり活動を広げたりして楽しませたい。また、みんなで決めたことを守りながら楽しむ活動を経験させたい。

(3) ひびき合いについて

学習を進めていくと、自分のやりたいことだけでは満足できず、もっと友だちと一緒に遊びたいと思うであろう。そこで、友だちと一緒に楽しむためにはどうすればよいか。ただ、自分の気持ちだけ発するのではなく、友だちの思いを聞いて受け入れることで活動が広がり、深まったときに楽しいと感じてほしいと思う。友だちと活動しながら、自分に関連している意見や全く新しい発想などを聞くことで友だちのよさに気付き、また、自分の活動に生かすといった姿をめざしていきたいと思う。

本単元では、秋のもので好きなものを作るが、同じようなものを作る友だちとグループを作ったり、プレゼントする相手によってグループを作ったりするようになって考えている。もっとよいものを作ろうと思ったとき、友だちに聞きたいという気持ちや教えてあげたいという気持ちを持つ子どもも出てくるだろう。おもちゃ作りのグループを作って楽しみながら交流する姿、また、プレゼントする相手のことを考えて、グループで考えをまとめ、一緒に活動し、作り上げていく姿を「ひびき合い」としたい。

4 単元指導計画（全17時間）

	学習活動	主な支援・留意点【評価】
1	○木の実など、秋の季節にできる自然のものに興味をもつ。 あきのものをさがそう ・校庭などで、初秋の草花や樹木、虫などの動植物の様子を観察したり木の実などを集めたりする。 ・もっと集めるための方法を話し合う。	・拾った木の実などを置いておく場を設定し、自然の材料を集める活動への意欲化を図る。 ・秋の草花や樹木、虫などに関心をもち、それらを観察したり、木の実などを集めたりしようとしている。 【関心・意欲・態度】
2 5	○自然の様子について関心をもち、秋のものを使って好きなものを作ろうとする。 こうえんであきをさがそう ・公園で遊んだり、秋の草花や樹木、虫などの動植物の様子を観察したり、集めたりする。 ・集めてきたもので、作りたいものを絵に描いてみる。	・夏の公園の様子と比べながら調べることで、自然の様子が変わっていることに気付けるようにする。 ・秋の公園の様子に関心をもち、公園の動植物を観察したり、みんなで楽しく遊ぼうとしたりしている。 【関心・意欲・態度】 ・諸感覚を使って秋の動植物を観察し、それらを使ったおもちゃや飾りを考える。 【思考・表現】

6 ↓ 1 ↓ 1 ↓ + (図工2)	○秋の自然を利用した遊びのおもしろさに気付く。 たのしくつくってあそぼう ・自然物の色や形などの特徴を生かして2年生にお礼のプレゼントを作ったり、簡単なおもちゃを作ったり、遊びを工夫したりして友だちと楽しく遊んだりする。 ・材料や道具の工夫について話し合う。	・拾い集めた自然物を教室に飾って楽しむなど、自分たちの生活を楽しめるようにする。 ・プレゼントする相手を意識して作るようにさせる。 ・秋の自然物を使った遊びに関心をもち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。【関心・意欲・態度】 ・秋の自然の特徴を利用して、遊びを工夫したり、遊びのルールを考えたりして、みんなで楽しく遊んでいる。【思考・表現】 ・秋の自然物を使って遊びをつくり出すおもしろさに気付いている。【気付き】
1 ↓ 2 ↓ 1 ↓ 7	○もっと楽しく遊べるように工夫し、みんなで遊びを楽しむことができる。 みんなであそぼう ・自分がつくったおもちゃで遊んでもらったり、友だちにつくったおもちゃで遊んだり、友だちに飾りをプレゼントしたりする。 ・互いのおもちゃや飾りのよさを教え合う。 ・おもちゃや飾りを改良したり、遊び方を工夫したりして、みんなで遊びを楽しむ。 ・活動を振り返り、気付いたことを表現し、伝え合う。	・道具の使い方については、正しい使い方について指導し、安全面に十分配慮する。 ・試し遊びを繰り返し、自分のおもちゃを改良することを通して、遊びに使うものを工夫してつくることのおもしろさを実感させる。 ・遊ぶときの約束やルールなどを考えさせ、それらを守って遊ぶと楽しいことに気付かせる。 ・友だちのおもちゃで遊んだ後に、おもちゃをつくった友だちに感想を伝える時間を確保する。 ・自分や友だちのつくったおもちゃや飾りに関心をもち、みんなで楽しく遊んだりおもちゃや飾りのことを伝え合ったりしようとしている。【関心・意欲・態度】 ・実際に遊ぶ中で、みんなが楽しく遊べるように考え、遊びのルールや約束を工夫しながら遊んでいる。【思考・表現】 ・友だちのおもちゃや飾りよさや、ルールや約束を工夫すると楽しく遊べることに気付いている。【気付き】

5. 本時について

(1) 本時目標

自分たちで集めた落ち葉や木の実を使って、2年生に喜んでもらえるように工夫して、お礼の気持ちを伝えるプレゼントを作ろうという意欲を持つ。

学 習 活 動	指導上の支援・留意点・評価 (◇)
プレゼントづくりのけいかくをたてよう！ みんながつくるプレゼントで、おれいのきもちがつたわるといいね。 ○どんなプレゼントを作るか、なかよし班で相談しよう。	・前時までの活動を振り返り、学習意欲を高められるようにする。 ・グループでの話し合いのイメージが持てるように、話し合いの視点をおさえる。 ・お礼の気持ちを伝えるためにどんなプ

<u>どんなプレゼント</u> ・喜んでもらえるもの ・お礼の気持ちが伝わるもの ・長持ちするもの など	<u>プレゼントの種類</u> ・落ち葉のしおり ・まつぼっくりのツリー ・落ち葉や木の実のメダル など	レゼントを作るかをしっかりおさえて、話し合わせたい。 ・プレゼントする相手を意識できるように、なかよし班で話し合う。 ・児童の発表をわかりやすく板書し、お互いの考えがわかるようにする。 ◇秋の自然物を使ってプレゼントを作ることに興味を持ち、2年生のことを考えてグループの友だちと話し合おうとしている。 【関心・意欲・態度】 ◇友だちの考えのよさや、秋の自然物を使って作りだす おもしろさについて気付くことができる。 【気付き】
<u>工夫</u> ・色やビーズなどをつける ・お礼の言葉をつける ・ラミネートする など	<u>準備するもの、道具</u> ・自分たちで準備できるもの ・学校にあるもの ・先生に手伝ってもらうもの など	

○グループで話し合ったことを発表しよう。

○次の時間にやることをたしかめよう。

6 実践を終えて

(1) 子どもとともにつくる学習展開

校庭でみつけたどんぐりをきっかけに、秋になったことに気付き、今までの生活科の学習で経験してきたことをもとに、「秋探検をしたい」「秋のものでいろいろなものを作りたい」「作ったもので遊びたい」という子どもの思いを大切にして学習を展開していった。

まず、秋探検は、学校の周りから始まり、以前に行ったことがある森林公園や二の丸広場などで行った。そして、集めた秋のなかまを使って、こまや迷路、ロケットなど遊ぶものを作りたいという思いや、リース、ネックレス、ブレスレット、ツリーやしおりなど身につけたり飾ったりするものを作りたいという思いが広がってきた。同時に、さつまいもをごちそうしてくれた2年生にお礼に作ったものをプレゼントしたいという思いも出てきた。

そこで、図工の学習と合わせてまず作りたい物を作り、工夫をしながらプレゼント作りやおもちゃ作りへと進んでいった。その後、作ったものを使ってみんなで遊ぶ「あったかランド」を行った。

プレゼント作りのグループやあったかランドのグループの友だちと関わり合いながら、子どもたちは、活動を通して学び合う学習展開を進めていった。

(2) 本時における子どもの切実な課題

本時は、自分たちで集めた落ち葉や木の実を使って、2年生に喜んでもらえるプレゼント作りの計画を立てる学習となった。プレゼントをする相手を意識して話し合えるように、なかよし班で話し合うことにした。なかよし班にしたため、プレゼントする相手のことがよくわかり、意欲的に取り組んでいた。しかし、話し合いよりもまずは作りたいという気持ちが強く、計画を立てようという課題は、あまり切実な課題とならなかったと思う。

(3) 成果と課題

子どもたちは、2年生にプレゼントをした後、「あったかランド」に向かって同じ思いを持った友だちとグループになり、アイデアを出し合いながら活動を広げていった。おもちゃを作るだけでなく、看板を作ったり、遊び方の説明を書いたり、場づくりを考えたりすることができた。また、あったかランドを盛り上げようというグループもでき、飾りを作ったり、スタンプカードや賞品を作ったりすることもできた。「あったかランド」を成功させたいという子どもたちの思いが一つになり、楽しく当日を迎えることができた。

ひびき合いについては、話し合いの視点やお互いの考えがわかるように子どもの発表をわかりやすく板書したが、グループでの話し合いでは、自分の意見を主張する子が多く、自分の思いを友だちに伝え、友だちの考えのよいところを取り入れ、より良いものを作ろうという話し合いには至らなかった。しかし、作る活動を通して自然に声をかけ合って助け合いながら活動したり、アイデアを教え合ったりする姿が見られた。休み時間にも頭を寄せ合って相談したり、他のグループと話し合いながら場づくりをしたりする姿も見られた。このことから、低学年は特に十分な活動時間が必要であると思う。そして、具体物を手に取って話し合ったり、作りながらアイデアを出し合ったりすることが必要だと思う。いろいろ活動することで、子どもにとって切実な課題ができ、次への活動が生まれてくると考える。そのためにも、教師は子どもの思いをしっかり見とり、先を見通して十分な活動時間を確保していかなければならないと思う。